

1 章

概 論

1 銃剣道とは

銃剣道は、明治初期にヨーロッパの銃剣術を取り入れて創成され、わが国の伝統的武術のひとつである槍術の「突き技」を基調として発展してきた。銃剣道は木銃を左半身に構え、相手の喉・胴への「突き技」のみの競技で、動作も単純で、習得も容易である。しかし、技の真髄を極めるには奥深いものがあり、「突く」「抜く」「打ち払う」「かわす」「押す」などの木銃の操作と「足さばき」で果敢に攻めるところが特色である。

銃剣道では、たゆまない努力によって心身を鍛錬陶冶し、規律を守り、礼節を尊び、信義を重んじる等、社会人として必要な道德性を高め、もって、正しく、明るく、強く、逞しい人間形成を目指して精進することを指標とし、基本的運動能力の育成に寄与するものである。

普及にあたっては、「やって楽しく、見て面白い」ことを感じさせ、「スピーディーで美しい試合」ができ、正々堂々とした態度を維持できるよう努力することを主眼としている。

2 銃剣道の歴史

銃剣道の前進となる銃剣術は、17 世紀後半のヨーロッパのフランドル地方の戦闘で考案された銃剣（バイヨネット）が 18 世紀に改良されて、ドイツ・フランスを中心にヨーロッパに銃剣によるフェンシング術が普及されていったことが始まりである。

わが国でも、明治 3（1870）年に陸軍の戦技としてフランス式銃剣術が導入された。しかし、当時の日本人の体格には不向きであったことから、戸山学校体操科長の津田教修により「宝蔵院流槍術秘書」を参考とした研究がなされ、明治 27（1894）年日本式銃剣術に改正された。これが現在の銃剣道の起源である。

以後、大正 13（1924）年には第 1 回明治神宮体育大会で実施され、翌大正 14（1925）年には大日本武徳会の独立科目として認められた。昭和 15（1940）年の樫原神宮大会から「銃剣道」という名称になり、翌昭和 16（1941）年に銃剣道の民間組織の端緒である大日本銃剣道振興会が設立され、銃剣道の普及が各地で行われた。

戦後、武道禁止令により大日本銃剣道振興会は解散。銃剣道は存亡の危機に直面したが、銃剣道の伝統を継承し、武道として後世に伝えようとする愛好者が全国でそれぞれ活動し始めた。昭和 28（1953）年には、戸山剣友会が設立され、全国各地でも組織が作られ始めた。

こうして、全国的に銃剣道再興の機運が高まってきたことから、銃剣道の全国的組織を設立することとなり、昭和 31（1956）年、全日本銃剣道連盟が設立された。全日本銃剣道連盟は、昭和 45（1970）年に社団法人の認可を受け、昭和 48（1973）年に日本体育協会への加盟が認められる。昭和 55（1980）年、国民体育大会の正式種目となり、銃剣術から武道としての銃剣道への変遷と発展を遂げてきた。

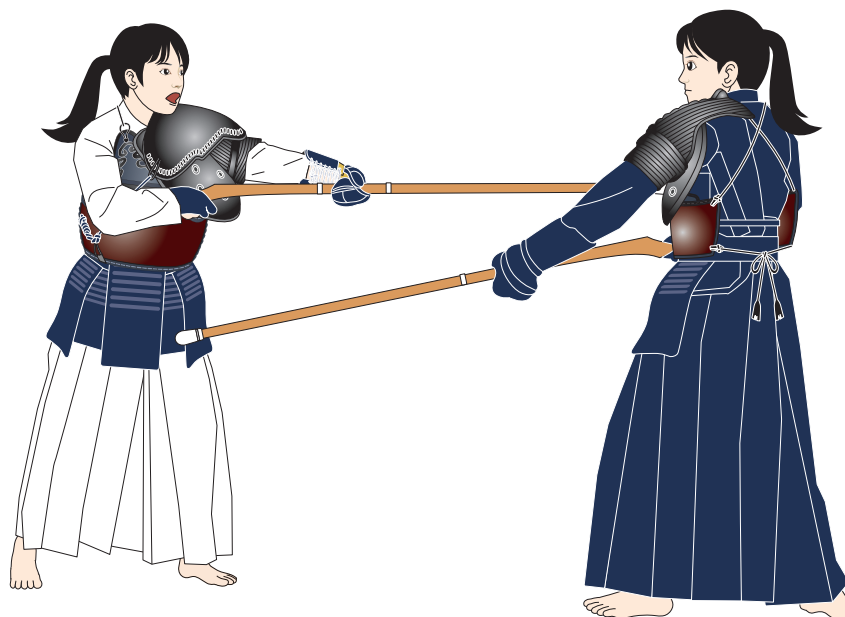
3 特 性

銃剣道は長さ 166 センチ（小学生以下は 133.5 センチ）の木銃を、左半身になって両手で持って構える。構えの姿勢から突く、突いた姿勢から構えの姿勢に戻るという単純な動作で行うため、初心者にも導入しやすい。また、青少年から高齢者まで生涯武道として行うことができる。

その一方、相手の木銃を「払う」、「外す」、「押す」、相手の突きを「かわす」など木銃を操作して、相手の構えを崩しながら突くという多彩な技がある。これらの木銃の操作を誤ると、反対に隙となるなど技の真髄を極めるのにはたいへん奥深いものがある。

また、相手と相対して技を出すには、相手の動きを見極めて突く機会を決断しなければならない。さらに、常に背筋を伸ばした正しい姿勢を維持しながら、最短距離で木銃を操作することと、足さばき等の運動を瞬時に一致させなければならない。

このような技の奥深さを追求していくことが生涯にわたって向上心を刺激し、意欲を高めるとともに、運動能力の向上、判断力、決断力、瞬発力の養成、正しい姿勢の保持に寄与していることに銃剣道の特性がある。



4 銃剣道の競技方法

銃剣道の競技方法は、用具を着装して突き技を競う試合と、用具を着装しないで基本技の形を競う方法がある。

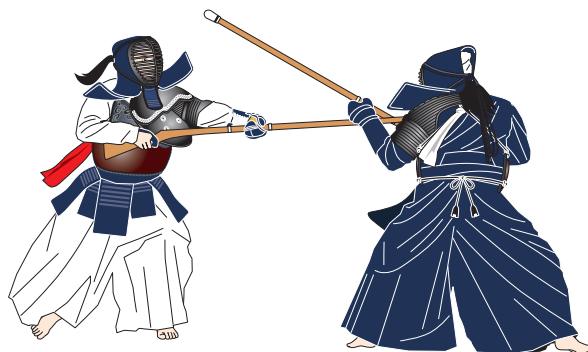
(1) 用具を着けて行う試合

■有効突き部位

左胸、喉

■勝敗の決定

3人の審判員が判定し、審判員の2人以上が「有効突き」と認めて旗を挙げれば一本となる。銃剣道の突きは正しい姿勢で、充実した氣勢と正しい突き方と体の動きが一致しなければ、有効な技とは認められない。



用具を着けて行う試合の例

(2) 用具を着けないで行う基本技の形試合

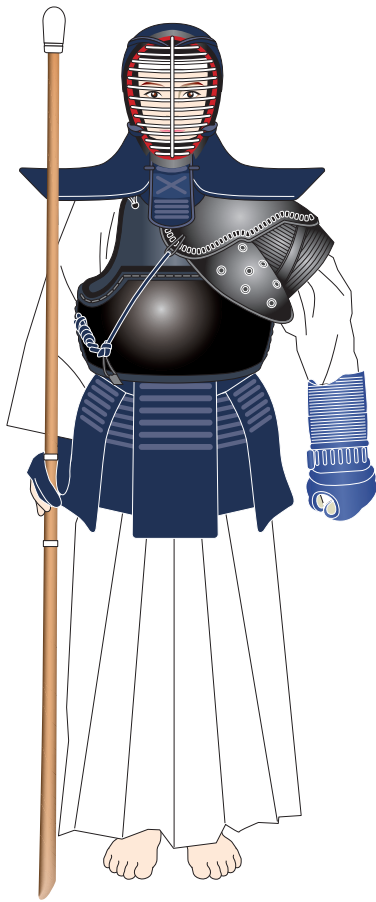
■勝敗の決定

3人の審判員が姿勢・氣勢・形の優れている方を総合的に判定して、選手が着けている色の旗を挙げる。その旗が多い選手が勝ちとなる。

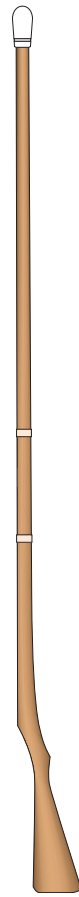


用具を着けないで行う基本技の形試合の例

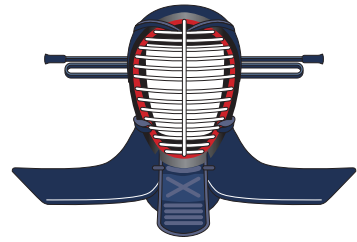
5 銃剣道の服装・用具



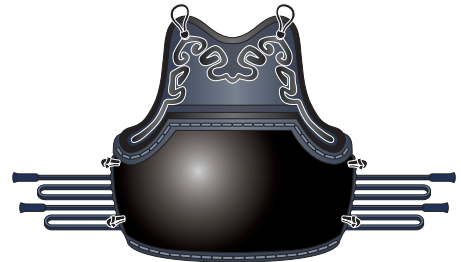
用具を着装した姿



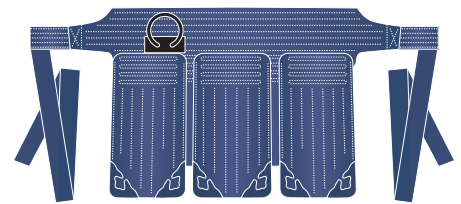
木銃（もくじゅう）



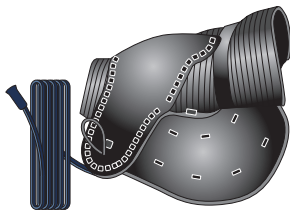
面（めん）



胴（どう）



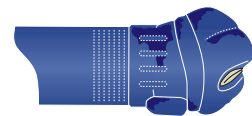
垂（たれ）



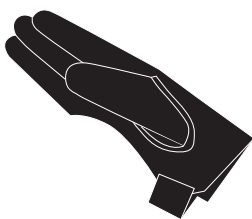
肩（かた）



裏布団（うらぶとん）



小手（こて）



指袋（しのう）

指導のポイント

- 「肩」「裏布団」は相手の突きによるケガを防ぎ、衝撃を和らげるために着ける。
- 「肩」は胴の上から、「裏布団」は胴の内側に着ける。
- 「面」は剣道やなぎなたのものに比べて、喉の前垂れが太く、相手の木銃が喉に入らないようになっている。
- 「小手」は左手に、「指袋」は右手に着ける。
- 銃剣道は、板の間の道場や体育館などの施設において、裸足で行う。